

市民意見収集方法	分野					
	1. 創造性の育つまちづくり	2. 笑顔で暮らすまちづくり	3. 環境にやさしいまちづくり	4. 安全で快適に暮らすまちづくり	5. 活力と魅力あるまちづくり	6. 協働で拓くまちづくり
	教育 / 文化 / スポーツ	社会福祉	環境 / 景観 / ゴミ	都市計画 / 上下水道 / 防犯・防災	産業全般	市民参加 / 行政経営
まちづくりシンポジウムアンケート	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、子育てでの視点を取り入れるため、もっと若いメンバーを加えてほしい 子ども達が大人になってこのまちでくらしたい、自分の手でこのまちをつくりたいと思えるまちにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設(福祉会館など)は、高齢者がボランティアや市民活動を進める拠点として役割を見直す 元気なシルバー層を介護ボランティアに参加させ活用していく 	<ul style="list-style-type: none"> 街の緑が減り、屋敷林も減っていき、緑を増やす前に今生きている木を何十年、何百年守って欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 駅前市街地・商店街の活性化 西武鉄道との連携 公園の配置も検討すべき(東大農場・住吉地区の都営住宅跡地等) 西武線の連続立体交差事業に取り組む 来るべき大震災に備えた生き残れるまち 		<ul style="list-style-type: none"> 全ての世代の人の交流の場、コミュニティスペースをつくる 行政への無関心層を関心層に変える運動 生産労働人口が確実に減少していく中、成長を前提としないオリジナルある視点で一步先ゆく計画を 各分野で魅力的なビジョンを持ち活動している個人、団体が多くいるので、それらの活動をつなぎコーディネートする 広報活動に工夫(インターネット、スマホアプリの製作など)をこらす 市から市民に対し、協働に対するスタンス・考え方をもっとPRすべき 市民参加の手法については、従来の手法の他に新しい手法を工夫すべき 行政との協働とともに、市民間、集団間の協働をどう形成していくかが大切 市民が上等という声を大いに宣伝してもらいたい 市民として人のつながりの中で生きているという認識を持って生活することが大切 西東京市の素晴らしい人材をつなぎ役目として行政の役割が期待されるが、まだ職員の人が慣れていない
まちづくり市民ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食メニュー・品質・行事食の更なる充実 学童クラブや児童館などの子どもを見守るスタッフの体制充実 地域の中で子どもの居場所をつくる 地域と学校のつながりを踏まえた学校選択性の見直し 学校図書館の充実 地域の中で学校という位置づけの強化 社会教育の拠点という公民館の位置づけを再確認・再定義 図書館のスタッフ体制の充実、ハード/ソフト面の強化 市が支援する文化・スポーツのコンテンツの見直し(ポップカルチャーなども含める) 施設へのアクセス手段(交通手段)の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で安心して暮らせる住まい・施設 空き家対策・空き家の活用 地域包括センターの体制・機能強化 独居老人等に対する地域における支えあい意識の向上、見守り 障害者福祉センターの体制、人材育成等の強化、専門職の登用 ボランティア活動、NPO、各種団体への支援強化 障害者のライフステージに合わせた相談体制(学校との連携) 土地開発、都市開発に市民による環境アセスメントの徹底 開発とみどりの保全のバランス 屋敷林の保全 東大農場のみどりの保全 農地の保全、市民農園を増やす 市民向け緑化啓発のための講習会の開催 市民のみどりを守る意見を反映するシステム 調布一保谷線を2車線にし、自転車道と緑地帯を増やす 市の公共建物に太陽光発電パネルを設置 日々の暮らしからCO2を削減する ごみの集団回収活動の実施 生ごみと落葉の循環利用策の実現 公共施設雑水への雨水の貯蓄・再利用の推進 井戸の保全、災害時の利用 廃食用油、バイオマスによる花バスの運転 生態系を崩壊させない都市計画の策定 石神井川の水質改善 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のみどりの保全・創出(グリーンカーテン、ペランダ植栽、神社・寺の森の保全) 青梅街道の景観の改善 景観に配慮した看板、街路、歩道の整備 景観コンテストでの啓発 土地開発、都市開発に市民による環境アセスメントの徹底 開発とみどりの保全のバランス 屋敷林の保全 東大農場のみどりの保全 農地の保全、市民農園を増やす 市民向け緑化啓発のための講習会の開催 市民のみどりを守る意見を反映するシステム 調布一保谷線を2車線にし、自転車道と緑地帯を増やす 市の公共建物に太陽光発電パネルを設置 日々の暮らしからCO2を削減する ごみの集団回収活動の実施 生ごみと落葉の循環利用策の実現 公共施設雑水への雨水の貯蓄・再利用の推進 井戸の保全、災害時の利用 廃食用油、バイオマスによる花バスの運転 生態系を崩壊させない都市計画の策定 石神井川の水質改善 	<ul style="list-style-type: none"> やさしくやすらぎを与えてくれる景観 景観ガイドラインづくりとガイドラインに沿った行動 駅に特徴を持たせる(コンセプトカラー、モニュメント等) 人、自転車、車が共存でき、安心・安全に通行できる道路 電線地中化 防災情報を双方向で交換できる仕組みづくり(情報発信のシンプル化、リアルタイムの電光掲示板の設置) 防災情報の定期実施 防災リーダ制度の創設 防災を意識したコミュニティづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 都市型農業の再認識、ブランド化 商店街との連携等、農作物流通の活性化 市内に駅が5つある鉄道の利便性を活かす、首都圏に隣接している地の利の活用 市のシンボルを創る 商工農業者等の事業者の当事者意識の向上 若手店主の交流、連携の促進 ソフトなもので産業界(アニメ産業界)の育成・活性化 東大農場の資源や魅力の活用 農業と健康・福祉との連携 農業と健康・福祉としての緑化事業(造園業等)のアピール 市内外から人が集まる魅力のアピール(まつり、歴史、自然) 大学等の知的資源の活用 外国人の住めるまち 市が問題を抱えずに、産学公連携で外部の力を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市をよくしたいという思いのある市民が多い 人権尊重の理念のもとでの市民活動 地域コミュニティのリーダ育成(リーダ育成講座の開催) 市民レベルでの防災を考える会、地域主体のまちづくり市民会議などのコミュニティの場の設置 ゆめこらぼの拡大(図書館、公民館等への設置) 集会所、宿泊・宴会のできる公共施設の設置 廃業商店を活用したコミュニティカフェの設置 若者やシニア世代の協働参加を促す 小中学生や未成年者向けに身近なテーマ(未来、就活等)のワークショップの開催 子育て世代が参加しやすいワークショップの開催(保育所機能) 子育て中や外に出ることのできない人の意見を吸い上げる工夫(アンケート、SNSの活用等) 市民投票制度の活用、住民投票条例の具体化 施策の結果に対する市民による検証の場の提供 市民まつりを市民が参加しやすくする(参加費を安価に) 西東京市をどういうまちにするか、ビジョンを話し合う場を設ける 市のアピールポイントを明確化する 行政のプロセス・結果についての説明をていねいに行う 収入に見合った事業の実施、事業の優先順位付け 補助金の見直し、非常勤職員(委員会の委員等)の報酬の見直し 競争入札の徹底 職員の専門性を高める 専門性が必要な職務は正職員とする 市民感覚を身につけるための各課市民交流会を毎年開催する
企業・団体ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> 子育てのしやすい環境づくり 日本の未来をつくる「子どもたち」のことを第一に考えてほしい 子どもたちの環境整備を重点的に(公園、遊び場、遊具、グラウンド、コンサートホール、病院など) 子育てを社会全体で担っていくというビジョンの設定 子育てのしやすいまちというイメージを打ち出している割には、職員も施設も含めて充実していない 子どもたち(保・幼・小・中)全体が対象のお祭りなどで集う機会をつくる 食に対するアプローチとエコロジーをあわせたまちづくり 向学意識が高い方が多いので、市と大学が連携した安価で近い場所での学習システムの構築 各大学の知的空間的資源活用 東京大学施設内でのファーマーズマーケット、新しい形のレストランを展開(21世紀型の農業のアピール) 隣接地市との医療や公共施設の相互利用 行政・NPO・企業が三位一体となったブランド事業の創設 既存スポーツ施設の跡地活用 アニメのまちづくり 市職員のNPO活動への体験参加 子育て・高齢者の孤立を予防するための地域でささえあう拠点づくり コミュニティカフェ、東大マルシェ、子どもデイサービスなど地域の資源を活用しつないでいく仕組みづくり 児童青少年課と教育委員会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 若年層の暮らしやすい魅力あるまちと高齢者にやさしいまちづくり(若年層と高齢者の共存・共同) 市民が生きがいをもって、西東京市で暮らしてよかったと思うまち いつまでも地域で暮らし続けるためのしくみづくり 市民向けイベントを行う場所が足りない 地域コミュニティ施設の整備 地域コミュニティの再構築 学校保健会の実施 活動拠点としての地域コミュニティセンター等の整備 地域密着型の病院を増やす ボランティア人材の育成 高齢者や障害者(児)のニーズに応じた福祉サービス、施設サービス 介護人材育成のための行政の当事者意識 移動相談員の育成 高齢者がいきいきと働く、ボランティア等参加できるまちづくり 高齢社会に伴って地域密着型の病院への転換(高齢者が安心できる医療体制) 病気になる前の予防対策 福祉総合相談機能が大切 	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺や都市計画道路、その他開発プロジェクトの推進によるまちづくり 青梅街道を歴史的エリアとして考える 市内の有機物を堆肥化し、市内自然、農地の健全化を図る 公民館・地区館・エコプラザ・ゆめこらぼ・ボランティアセンターの横の関係が見えない 市内農場での健康食品栽培 景観はその場所の思想であると言われるくらい大切なものであるという意識が必要 地域商店街のためのアドバイザーが必要 交通不便の施設について、イベント時に臨時バスの運行を行うなどの弱者への配慮 母子と高齢者を対象とした生きがい調査の実施 農家のトラクターなどへのバイオディーゼル燃料(BDF)利用のまちづくりを先進的に進める 市民と農家・農地・農業が共存できるまち NPO活動の情報発信に市報、掲示板などの活用 高齢者に配慮し、市報などの印刷媒体の文字を大きくする 石神井川の清掃ボランティア活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 新青梅街道、西武新宿線で分断された南北の交流 ファミリー層が定住しやすい環境(ファミリー層への住宅供給に寄与する用途変更及び地区計画施策) 青梅街道から北側の道路が特に狭い。車道と歩道が区別されていない道路がある。 有事の際の帰宅困難者の扱いなどの自治体連携の調整 駅周辺の賑わいの推進 駅前ロータリーの整備、アクセス道路の拡張 バス路線の利便性向上 市、警察、市民が一体となった犯罪のおきにくいまちづくり 落書き消去、防犯カメラの設置 地域の連携活動として防火防災訓練の実施 犯罪のない安全で安心なまち西東京 振り込め詐欺対策としての高齢者情報の収集及び災害時の避難(見守り) 防災拠点としての避難所となる学区ごとの避難所運営の仕組みマニュアルの作成 東日本大震災の教訓から、防災行動力向上の強化 地域コミュニティの強化を図り、地域の絆づくりや助け合い意識のとともに、防災意識や自助・共助意識の共有(災害に強い、災害時用援護者も安心して生活できるまちづくり) 	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市はこれだという方向を打ち出し、それを軸にしたまちづくり 新しい市として大胆なチャレンジが期待されたが、未だに田無、保谷の調整を感じる 資源を活かした地元商店街の活性化や高齢者に対応した商店会づくり 市と商店会、自治会が一体となったまちづくり 商店、商店会の活性化事業(スタンブラリー、プレミアム付商品券) 市民まつりを活かす(名物を生む、店や企業の情報提供等) コミュニティカフェ、民家で弁当など、商店街・商店・福祉・農家等の連携 地域的な名物(食べ物も含め)をつくる 各地域ごとの意見を吸い上げる仕組み 市内で楽しめる魅力あるまちづくり 農業(農地を守るし(み)が継続していけるような取組み、環境づくり、連携(みどりや食、健康) 農産物共同直売所施設の建設 栄養士による講演会の実施 地場産農産物加工を行うための相手を見つける仕組み 学校、市(教育委員会)、農家の連携・統括の仕組み 市が農地を守る みどりが生んだみどりが似合うニトウキョウ・グリーンシティ等のPR 旧青梅街道(開設406年)の賑わいの復活、活性化 道の駅などの市民の交流の場の提供 開催規模が大きい展示会への市内企業出展時の補助(市をPRすることを条件) サービス付き高齢者向け住宅への取組 人材育成と異業種交流、同業他社との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市らしい特色を出したまちづくり 住んでよかったと思えるまち 人のつながりをつくる シルバー人材センターの活用を拡充 高齢者向け健康講座実施への市の支援 市内外の企業とのコミュニケーション 東大農場を活用した外部から人が来たくなる仕掛けづくり 田無駅から東大農場までのエリアを回遊、散策できるような遊歩道、商店、公園などを配置、ネットワーク化 先端企業、ソフト会社への補助によるSOHOづくり 交流のつなぎ役としてのエフエム西東京の活用 協働事例集の作成 NPO等によるまちづくり円卓会議の開催 協働推進のための研究会の立ち上げ、先進都市の調査 体験農園をきっかけとして都心から人を呼び込む等西東京の良さのPR

市民参加における主な意見（比較的共通した意見を抜粋）

< 企業団体ヒアリングでの意見 > 第8回審議会で報告

1. 市を取り巻く現状認識として

- ・ 少子高齢化による働き手、支え手の減少
- ・ 転入転出によるコミュニティの希薄化（防犯面などの安全性の確保）等

2. 西東京市の良い点・改善が必要な点として

< 良い点 >

- ・ 交通利便性が良い（都心へのアクセスの良さの割りに緑が多い）
- ・ 人がやさしい
- ・ 市民活動が活発、市役所との良好な協調関係
- ・ 人口が増えている（若年層も）
- ・ 環境が良い（緑、交通、市民）等

< 改善が必要な点 >

- ・ 市として特徴がない、目立たない、目標がみえない、メッセージ性がない
- ・ 道路・交通環境整備について（歩道のない狭い道路、南北の移動）等

3. 活動運営上の課題として

- ・ 運営を担う人材確保が難しい
- ・ 資金難（事業運営）
- ・ 活動拠点・施設が足りない等

4. まちづくりに対して

- ・ 市の特徴、強みを活かした方向性をはっきり打ち出すべき
（子育てしやすいまち、若者の暮らしやすいまちづくり等）
- ・ 農と食（食育）のまちづくり
- ・ 歴史・文化を活かしたまちづくり
- ・ 人と人がつながり、人が育つまち
- ・ 安全、安心のまち（防災、生きがいを持って暮らせる）等

5. 活用すべき資源として

- ・ 東大農場、いこいの森公園、アニメ、大学、市民、居住環境の良さ等

6. 市民参加のまちづくりとして

- ・ 協力できること、やれることは積極的にやっていきたい
- ・ 市民の力を活用し、地域力を高めて行くことが必要不可欠
- ・ 発展性ある活動環境づくりとして、団体と団体等つなげてくれる仕組みづくり
- ・ 行政のかかわりは必要不可欠なので、庁内の横断的な組織連携が必要等

<シンポジウム・アンケート・ワークショップでの意見>

1．創造性の育つまちづくり（教育/文化/スポーツ）

- ・ 自分の手でこのまちをつくりたい
- ・ 子どもを見守りたい
- ・ 子育てを社会全体で担っていききたい

2．笑顔で暮らすまちづくり（社会福祉）

- ・ 元気なシルバー層の参加を促進させたい
- ・ 地域で安心して暮らしたい
- ・ 地域における支えあいの意識を向上させ、高齢者を見守りたい
- ・ 暮らしやすい魅力あるまちにしたい
- ・ 誰にもやさしいまちにしたい
- ・ 市民が生きがいをもって、西東京市で暮らしてよかったと思うまちにしたい
- ・ いつまでも地域で暮らし続けたい
- ・ 高齢者がいきいきと働く、ボランティア等参加できるまちにしたい

3．環境にやさしいまちづくり（環境/景観/ごみ）

- ・ 緑を守りたい
- ・ 農地を保全したい
- ・ 景観がこの場所の思想と言われるくらい大切にしたい

4．安全で快適に暮らすまちづくり（都市計画/上下水道/防犯・防災）

- ・ 大震災に備えた生き残れるまちにしたい
- ・ 防災を意識したコミュニティづくりをしたい
- ・ 安全で安心なまちにしたい
- ・ 震災の教訓から防災行動力を強化したい
- ・ 地域コミュニティの強化を図り、絆づくりや助け合いの意識を育てたい

5．活力と魅力あるまちづくり（産業全般）

- ・ 市のシンボルを創りたい
- ・ 市内外から人が集まる魅力のアピールをしたい
- ・ 市内で楽しめる魅力あるまちづくりをしたい
- ・ 西東京市はこれだというまちづくりをしたい
- ・ 市や商店会、自治会が一体となったまちづくりをしたい

6．協働で拓くまちづくり（市民参加/行政経営）

- ・ 各分野で活動している個人・団体の活動をつなぎたい
- ・ 市民間、団体間の協働をすすめたい
- ・ 素晴らしい人材をつなぐ役割として行政に期待したい
- ・ 人のつながりの中で生きているという認識を持ちたい
- ・ 人のつながりをつくりたい
- ・ 多くの市民の思いは西東京市をよくしたい
- ・ 市のアピールポイントを明確化したい

<まちづくり子どもワークショップでの意見>

【小学生の作文から】

- ・ 昔のように賑わって欲しい。障害のある人も働ける場所があればいい。もし、10年後に理想のまちにならなくても、何年もかけていいまちを自分でも作っていききたい。
- ・ まちを守る人や、頑張っている人たちのことを知りました。障害のある人たちも頑張って仕事をしていて、農業をする人たちがたくさんいて、いつもきれいな野菜を食べることができるような市になって欲しい。
- ・ 交通が便利で緑の多いまちにして欲しいです。僕達は考えるだけじゃなく、自分自身行動に移し、一緒に取組む活動も必要だと思います。そうすれば、自分達の考える理想のまちに近づけると思います。
- ・ 商店街は色々な人とも関わることができるので、続けて行って欲しいです。今と昔両方が両立できる暮らしが僕の理想です。
- ・ スムーズに移動ができるまち、木陰がたくさんあるまち、畑を増やし新鮮な野菜を食べることができるまちが理想のまちです。
- ・ 農地や昔から伝わる文化を守りながら、主要道路と駅周辺を中心にまちづくりを進めるべきと考えます。そうすれば市外から人がやってきて商業や農業の活発化につながり、理想のまちに近づくとと思います。
- ・ 苦労や工夫を重ね、頑張っている人が住んでいる土地は素晴らしい。僕は頑張っている人を見ると元気が出る。西東京は、そのような人で満ちています。僕の家近くの人の中にも、そのような人がいます。
- ・ 子どもが遊ぶ場所を作っておかないと、ストレスもたまるし、運動をしておかないと丈夫な体も作れないから、遊ぶ場所も必要だと思います。
- ・ 緑が豊かで人々との交流が盛んで、にぎやかなまちというのが僕の理想のまちです。
- ・ なるべく障害のある人も働ける場所を増やして欲しいです。
- ・ 西東京市で取れた野菜は、いろいろな小学校でも食べられているから、これ以上畑を減らしてほしくない。
- ・ 私は、いまのままの西東京でいいと思います。
- ・ 私は、今の西東京市が良いまちだと思っています。大切なのは思いやりだと思います。西東京市の人みんな広い心を持ってやさしい気持ちになれるといいです。そうすれば、人口も増えると思います。それが私の理想のまちです。

【中学生の新聞から】

- ・ 今の西東京市には人とふれあう機会が減っているように感じた。だから、将来は人とのふれあいを大切につつ、都市と緑を両立させたものになれば良いと思う。
- ・ 今はどこでも入りづらい環境で、若者との交流が少ない。これからはふれあいを通して明るい街にしたい。